

第8講 展示室の構造

本日の授業資料
gairon2020_8-1-2
pdf × 2

1. 展示室の構造

1) 建築物の範囲

建築物とそうでないものの区別を考えたことはあるだろうか。教室で考えた場合、床、柱、梁〔はり：横向きの柱のような部分〕などは建築物で間違いのないだろう。黒板や教壇、机や椅子は違う。照明器具も建築物ではない。では天井はどうか、「壁」として見えている部分は？

このような定義を問う場合は基準を明確にして議論する必要がある。18歳の自分の常識で考えても無意味である。かつて日本の建築基準法では天井は耐震基準の対象ではなかった。2011年の東日本大震災で公共施設の天井が落下して人的被害も大きかったため、建物の性格や天井高によって「特定天井」という基準が設けられ、耐震基準の対象とされるようになった。それ以外の天井は現在も内装の扱いである。壁についても同様で、建築物を支える目的の耐力壁（日常語では構造壁とも）と非構造壁に分けている。耐力壁の場合、内装が施〔ほどこ〕されていることが通例であり、建築物本体は室内からは目に入らないことも多い。

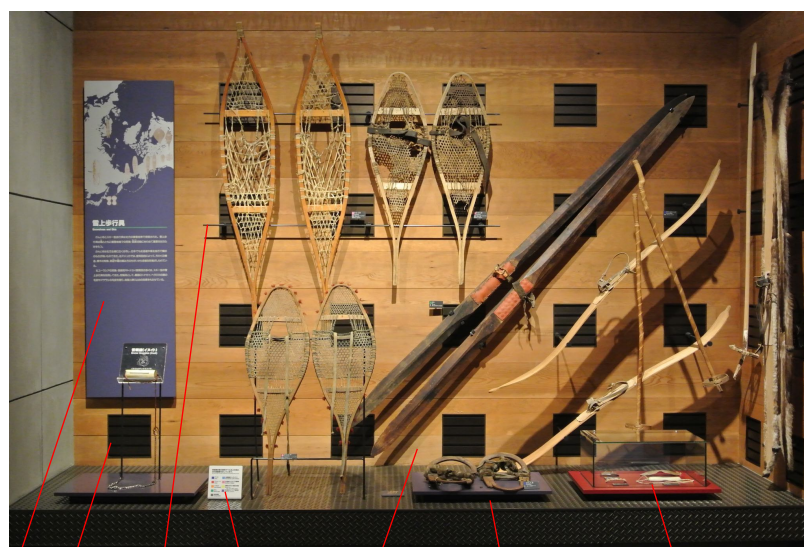
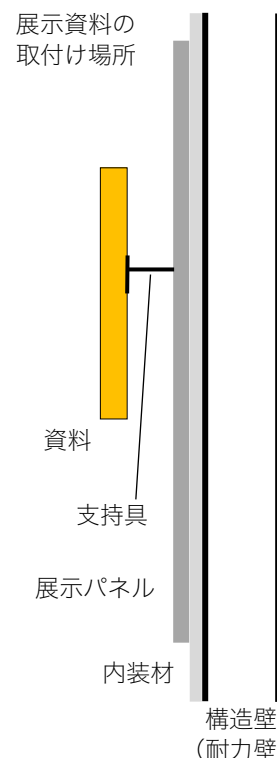
2) 建築物と資料のあいだ

展示室は博物館の建物（本体）の内部にある。では、資料はどこに展示されているのか。資料の展位場所は、ケースの内部や展示台（ステージ）の上、壁面、場合によっては天井からの吊り下げなどによる。このうち壁面の展示は構造壁に直接取り付けるケースは少なく、多くの場合は天井からの吊り下げまたは内装材のうえに展示パネルを取り付け、そこに支持具を用いて資料を展示する。場合によっては展示パネルが内装材となることもある。

北海道立北方民族博物館（網走）の展示

「展示パネル」の語は展示業者と博物館職員とで異なった意味で用いられていることがある。展示業者が言う展示パネルは展示資料を展示するための部材、掲示板を意味する一方、博物館や動物園の職員は解説板を慣例で「展示パネル」と呼ぶことがある。まぎらわしいが学術情報課程の授業では展示業者の用法を用いる。展示業界の用語では解説板は「グラフィック」である。

ネットで「展示パネル」を検索すると画像の結果は掲示板や美術館などで用いる移動式の展示壁が当たることから、こちらの方が一般的な用法といえる。



展示パネル
支持具
内装材
ステージ
ケース
グラフィックパネル
通常グラフィックと略す
キャプション



展示パネル印刷 | 大判プリントの...
obanprint110.com



展示パネル印刷 | 大判プリントの...
obanprint110.com



展示パネル製作 | Kamegai art design
kamegaiartdesign.com



展示パネルで来場者の流れを作る！ | コラム | IT企...
be-dash.co.jp



展示パネル 有孔ボード アルミ...
look-it.jp



展示パネル | ホワイトボード | オフィス家具R
kagu-r.com



フラットMJパネル 90 / 120 | 製品一覧 | ピクテ...
takiya.com



Amazon.co.jp : 多目的...
amazon.co.jp



展示パネル | 博物館/美術館/郵便局 | 製品...
nipponfiling.co.jp



アスクル | オカムラ 4W56 展...
askul.co.jp



展示会用Pパネルレンタルなら 東京 大...
event21.co.jp



展示パネルシステム PRP-...
signmall.jp · 在庫あり



幅広W1200パネルレンタルなら 東...
event21.co.jp



展示パネル 有孔ボード ア...
look-it.jp · 在庫あり



アスクル | オカムラ 4W5...
askul.co.jp

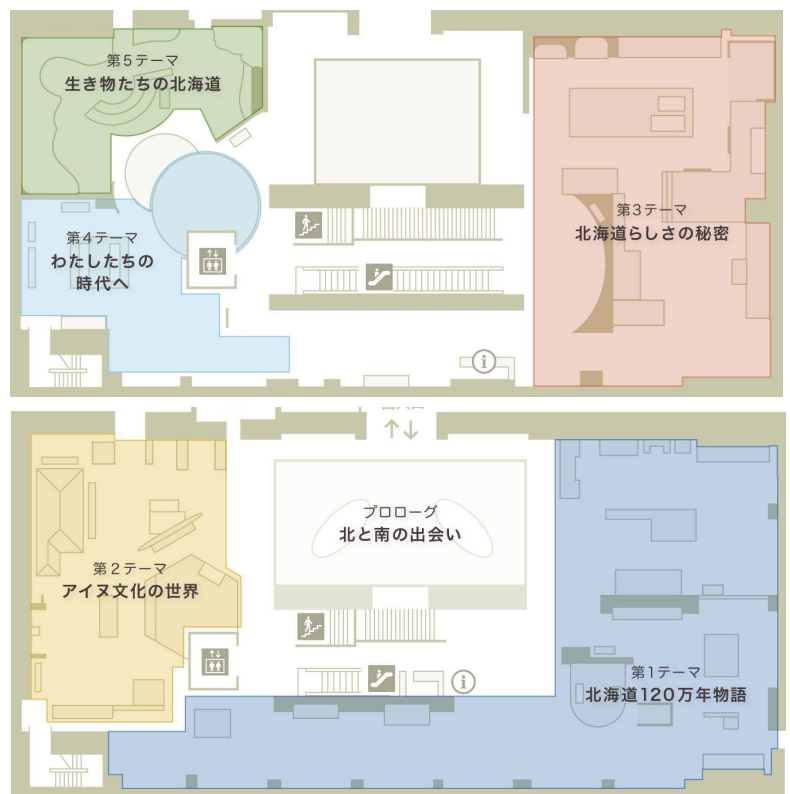


展示パネル | 博物館/美術館/郵便局 | 製品...
nipponfiling.co.jp

「展示パネル」の検索結果。通常は掲示板のこと

3) 展示の階層

展示室（ギャラリー）は内容で階層が作られている。名称の規則や決まりはないが、階層の上から順に、展示室>展示テーマ>展示コーナー>展示資料としていることが多い。



2. 展示の演出 北海道博物館の展示室の平面図 上2階, 下1階
<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/exhibition/>

1) 照明

展示資料を見るには光が必要である。通常、展示室の照明は資料保存や制御のしやすさから人工照明である。油絵など耐光性に優れた資料では、壁のガラス窓からの採光や天井のすりガラスを通した自然照明すなわち太陽光を照明として用いることもある。照明は資料の見え方や印象に大きく影響する。



自然採光はルーブル美術館でも用いられている

2) 音響

資料としての音声ではなく、演出用に効果音や音楽を用いる場合がある。展示室全体の背景音とするよりも入口や特定部分に用いることが多い。

3) 造作

展示室全体の演出のため、あるいは人気の低い資料や見た目が地味な資料には来館者の興味を引き親しみが持たれるような視覚効果のための造作が置かれることがある。単純に装飾のことも、場合によっては資料不足を補う目的の場合も見られる。適切名用語が見つからないため、造作または演出造作と呼んでおく。

4) その他

展示室には資料の保存や適切な観覧環境を提供するための空調装置、案内や業務のためのスピーカーやサイン（案内看板）、作業用の照明、火災通報装置などさまざまな機器が設置されている。これらにも注意を払うと展示室がなお楽しめる。

上：北海道立北方民族博物館の展示室の導入部分。異空間体験を期待させる照明と音響のためのスピーカーが配置されている中：同館の常設展示室の天井。スピーカーや作業用の照明、非常口を示すサインが配置されている。明るく調整している
下：ロンドン自然史博物館の昆虫展示。実物資料が小さく好き嫌いが分かれるためか人目を引くような演出造作を用いている



3. 動線

1) 強制動線と自由動線

展示室での動線は来館者が展示を観覧する経路である。これには強制動線と自由動線の2つの方式、考え方がある。強制動線は観覧の経路を固定した順番で見せる

方式、自由動線は観覧順序を与えずに来館者に任せる方式である。強制か自由かの選択は建築物の条件から決まる展示室の形状の影響が大きい。たとえば細長い展示室では強制動線になり、広く円形や正方形に近い室内では強制動線を設定することも自由動線も両方が可能になる。もちろん両者の組み合わせも可能である。博物館の多くは複数の展示室から構成されており、展示室間の移動動線についても自由動線や強制動線の違いが生じる。

強制動線は展示のストーリーを重視する考え方である。うまくいけば感動も大きいだが、観覧者が退屈したり飽きるかも知れない。また移動を前提としているため1つの資料を長時間観覧することや特定の資料に人が集まるような展示には不向きである。自由動線は著名な資料が多く1点1点に見応えがあり長時間の滞留が見込まれる展示に向いている。通路を広くする必要や視線の自由度も確保するため展示点数が減少するため、展示室内の自由動線はある程度の広さが必要となる。

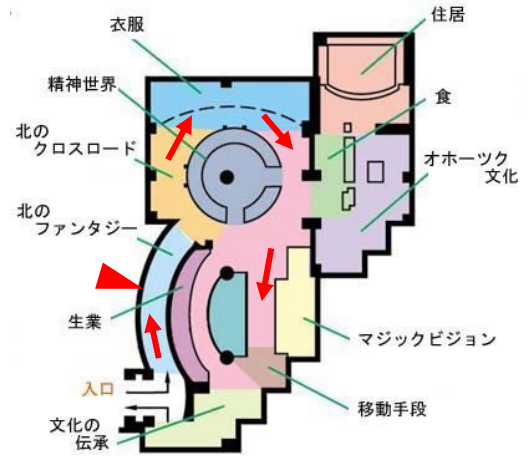
日本の展示は、ストーリー重視の強制動線から自由動線に移行し、現在また強制動線に回帰したように感じている。

2) 右回りと左回り

展示室の動線はグラフィックが横書きなら右回り（時計回り）、縦書きであれば左回り（反時計回り）に設定するのが通例である。逆にすると常に解説文章を後ろから追いかける形になる。仏典や日本の文書や絵巻物は右から左に文章や物語が進むため、時計回りだと後が先に目に入ることになる。そのため解説も縦書きとして動線も反時計回り（左回り）ということが多い。

先に示した北方民族博物館の導入部も展示室を右回りで見せるための工夫でもある

北海道立北方民族博物館の常設展示室。赤の三角で示した部分が前ページの青い空間。これにより右回りを確保している http://hoppohm.org/tenji/jyoten_map.htm



3) 博物館の事例

右上図のとおり北海道立北方民族博物館の常設展示室はほぼ強制動線である。三重県総合博物館の常設展示室（「基本展示」と称する）も通路が狭い強制動線で多くの資料が詰め込まれている。



左：三重県総合博物館の基本展示（常設展示室）はらせん状に見て回る印象。人と資料の距離が近い設計
右：展示室の透視図 <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/82536046493.htm>

九州国立博物館は常設展示を自由動線としたことで話題となった。展示室には壁ケースに加えて中央部にも展示ケースを点々と置き、その間を自由に観覧する。複数ある展示室も見学の順序は自由と明記している。

<最終ページにつづく>

文化交流展示室案内

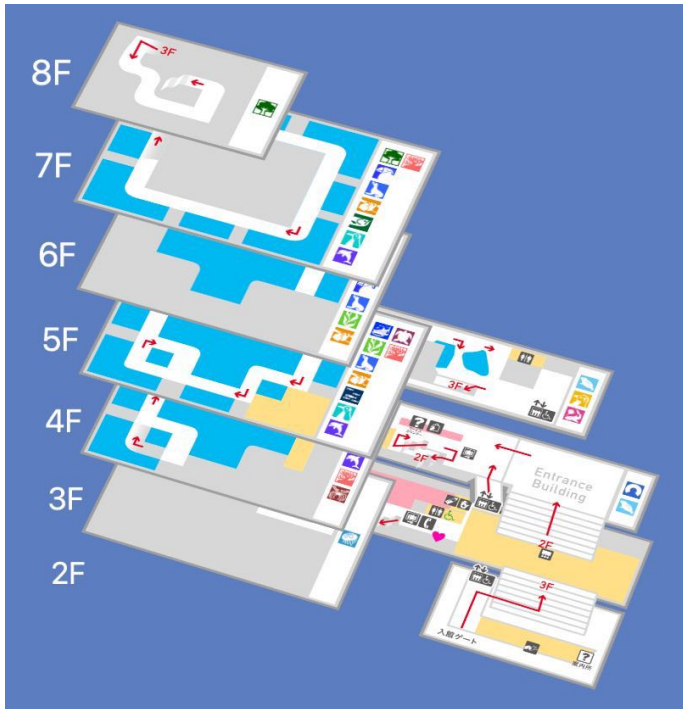
文化交流展示室では、日本とアジア、ヨーロッパとの文化交流の歴史を紹介しています。旧石器時代から江戸時代までを5テーマに分け、それぞれの文化交流を物語る作品を展示しています。見学の順序は自由！どうぞお好きな時代からご覧ください。さあ、出発しましょう！



左：九州国立博物館の展示室は広い空間に展示ケースが点在、その間を自由に観覧する、資料と人との距離が広い設計
右：交流展示室（常設展示）の平面図。複数ある展示室の見学順序も自由 https://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition_info01.html

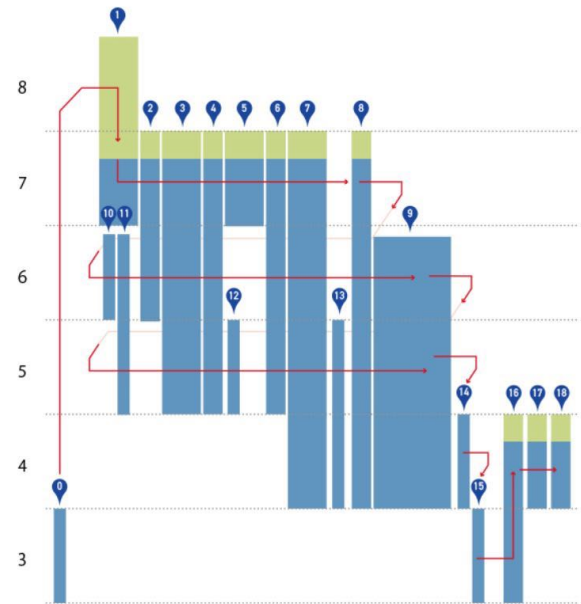
4) 水族館の事例

典型的な強制動線を持つのが大阪市の海遊館である。高層建築の館内を太平洋に見立て中央部分に大洋にあたる大水槽、周囲に属海や湾の部分を設置し、観覧者は最上階から下層階へとらせん状の通路を回り降りる三次元の強制動線。展示室のなかに通路が埋め込まれている。対照的に三重県の鳥羽水族館は自由動線であり複数ある展示室を大きな通路で結び見る順番は観覧者が自由に選択する。展示室と通路が分離している。展示室の内部でも中央に空間を設けた自由動線の部分が多い。



海遊館の館内マップ

<https://www.kaiyukan.com/area/info/map/>



館内のご案内

- | | | |
|--------------|----------------|-------------------------|
| 0 アクアゲート | 7 タスマン海 | 14 日本海溝 |
| 1 日本の森 | 8 グレート・バリア・リーフ | 15 海月銀河 |
| 2 アリュエーション列島 | 9 太平洋 | 16 北極圏 |
| 3 モンテレー湾 | 10 瀬戸内海 | 17 フォークランド諸島
(マルビナス) |
| 4 パナマ湾 | 11 特設水槽 | 18 モルディブ諸島 |
| 5 エクアドル熱帯雨林 | 12 チリの岩礁地帯 | |
| 6 南極大陸 | 13 クック海峡 | |



鳥羽水族館の館内案内図

<https://www.aquarium.co.jp/kannai/index.html>

(博物館の事例つづき)

福岡市博物館は自由動線から強制動線に変更している。曰く、「ビュッフェ型」(バイキング型)展示から「一筆書きの見学動線」とし、歴史の起承転結を明快に伝える「フルコース型」展示にしたとのこと。



福岡市博物館の常設展示室の平面図。下中央部の出入口から続く赤い線が見学動線
<http://museum.city.fukuoka.jp/archives/jyosetsu/>



東京国立博物館の本館の展示室。展示室の見学方向は手前から向こう側になっているが、室内での順序は自由。強制動線と自由動線の折衷型である。照明は天井のほかケースにも備えられている。資料の影から照明の位置がわかる



ロンドン自然史博物館のファサード
上は便宜的名称で正式名称は The Natural History Museum

【前回の追記】ファサード façade (仏) facade (英)

建築物の玄関の面。壁と言うと柱や梁が含まれない。日本語には正面という語があるが西洋建築物にはファサードを用いる。

木造軸組工法(在来工法)の用語も知っておきたい。木造軸組工法の各部の名称 | 建築資料研究社 | 日建学院

<http://www.web-mypage.com/mame/kouhou/kouhou.html>

【レポート5】

課題: **観覧者、職員、資料の3動線を区別して記入する。動線は色使用可**

自分で考えた博物館の平面図を黒1色で手書きし、空間名称を記入、建物の出入口、空間の出入口を図で示す

提出方法: 本日の授業で作成提出する。次の約束を守ること。**出入口は壁の線が切れていればよい**

参考として2019年の提出物を添付する [gairon2021_8-2.pdf](#)